2.1.2.3.　キャニスタは、毎回2000mg以上で破過するようローディングすること。
2.1.2.4.　キャニスタの破過は、次のいずれかにより行うものとする。
2.1.2.4.1.　SHED又はそれに類する設備を使用してHC分析計の値又はベントポートのHC分析計の瞬時値が5000ppmCに達することを確認する。
2.1.2.4.2.　パージングが完了したキャニスタの重量と2000mg以上で破過させたキャニスタの重量の差を確認する。
2.1.2.5.　放置時間
　エージングサイクルにおいて、ローディングとパージングの間に５分間の放置時間を設けること。
2.1.3.　パージング
2.1.3.1.　キャニスタのタンクポートを塞ぎ、ベントポートからパージすること。
2.1.3.2.　ベントポートから流入速度24ℓ／minでキャニスタ容量の400倍の体積をパージすること。
2.2.　キャニスタエージングの手順(2)
　キャニスタエージングは、ローディング、放置及びパージングを１サイクルとし、表３左欄に掲げる最高速度に応じ、それぞれ同表右欄の試験のサイクル回数を行うこと。
表３　キャニスタエージング試験回数

最高速度	サイクル回数
50km／h以下	90回
50km／hを超え130km／h未満	170回
130km／h以上	300回

2.2.1.　ローディング
2.2.1.1.　燃料を容器に入れ、353.2K（80℃）で加熱すること。この場合において、燃料蒸発ガスをタンクポートから流入させ、キャニスタの最大吸着容量の80％の容量まで当該蒸気をキャニスタに吸着させる。
2.2.1.2.　パージポートに蓋をした状態で10分間放置すること。
2.2.2.　パージング
　293.2±５K（20±５℃）において4.7（±0.2）×10^{-4}㎥／sの流量で7.5分間パージングを行うこと。
3.　燃料蒸発ガス制御弁、ケーブル及びリンケージのエージング手順
　自動車型式指定規則第３条第１項の規定による独立行政法人交通安全環境研究所に提示する自動車に係る走行の要件並びに同条第４項に規定する国土交通大臣が定める自動車及び書面（昭和58年運輸省告示第331号）による走行を行う自動車にあっては、当該走行を行った際の燃料蒸発ガス制御弁、ケーブル及びリンケージを使用すること。
別紙３　密閉装置の校正方法
1.　校正の頻度
　密閉装置に関する全ての装置の校正は、試験の１月前その他必要な時期に行うものとする。
2.　密閉装置の校正
2.1.　SHED内容積の初期測定
2.1.1.　SHED内容積は、SHED内の突起物を考慮し、SHED内側の長さ、幅及び高さを測定することにより算出すること。
2.1.2.　SHEDの正味の内容積は、SHEDの内容積から0.14㎥を減じて算出すること。ただし、代替試験法による場合にあっては、車両の実容積を減じて算出することとする。
2.1.3.　2.3.により校正及びHCの残留濃度を確認すること。この場合において、プロパン質量の誤差が２％を超える場合にあっては、再確認を行わなければならない。
2.2.　SHEDのバックグラウンドエミッションの測定
　SHED内にHCを多く排出する物質を含んでいないことを確認するために、SHEDのバックグラウンドエミッションの測定は、バックグラウンドに影響を及ぼす可能性がある測定を行った後及び少なくとも年に１回行うこと。
2.2.1.　測定に使用するHC分析計については、ゼロ及びスパン調整を行い、必要に応じて校正を行うこと。
2.2.2.　安定したHCの測定値が得られるまでSHEDをパージすること。この場合において、掃気用ファン等を作動させること。
2.2.3.　開始時のバックグランドHC濃度、温度及び気圧の測定は、SHEDを密閉して行うこと。
2.2.4.　SHEDは、４時間以上密閉状態に保つこと。この場合において、混合用ファン等を作動させること。
2.2.5.　HC分析計については、ゼロ及びスパン調整を行うこと。
2.2.6.　終了時のバックグランドHC濃度、温度及び気圧を測定すること。
2.2.7.　SHEDのバックグランドエミッションは、HCの質量変化を2.4.の式により算出し、４時間で400mgを超えないものとする。
2.3.　校正及びHCの残留濃度確認
　SHED内の校正及びHCの残留濃度の確認は、以下の手順に従って行うこと。
2.3.1.　SHED内は、安定したHCの測定値が得られるまでパージし、混合用ファン等が作動していない場合は作動させること。この場合において、HC分析計の校正については、試験直前にゼロ及びスパン調整を行い、必要に応じて校正を行うこと。
2.3.2.　SHEDを密閉し、開始時のHC濃度、温度及び気圧を測定すること。
2.3.3.　SHED内に約４ｇの純プロパンを注入すること。この場合において、注入量については、体積流量又は質量で測定し、測定精度については、±２％とする。
2.3.4.　純プロパンを注入してから５分以上経過した後、HC分析計のゼロ及びスパン調整を行い、SHED内のHC濃度を分析し、温度及び圧力を記録すること。この場合において、当該測定値については、SHED校正の最終指示値とし、かつ、残留濃度確認の初期指示値とする。
2.3.5.　SHEDの校正状態を検証するために、2.3.2.及び2.3.4.の測定値に基づき、2.4.に示すプロパンの質量を算出する。この場合において、算出した質量は、2.3.3.で測定した質量の±２％以内でなければならない。
2.3.6.　SHEDを４時間以上密閉状態に保ち、その後、SHED内のHC濃度を分析し、温度及び気圧を記録する。この場合において、当該測定値については、HCの残留濃度確認の最終指示値とする。
2.3.7.　2.4.の式並びに2.3.4.及び2.3.6.の測定値を用いて、HCの質量を算出する。この場合において、算出した質量は、2.3.5.の測定値と比べて±４％以内でなければならない。
2.4.　計算
　HC濃度の初期指示値及び最終指示値、温度の測定値並びに圧力の測定値を用いて、次式によりSHED内のHCの質量変化を計算する。

$$M_{HC}=k\cdot V\cdot 10^{-4}\cdot\left(\frac{C_{HC\cdot f}\cdot p_f}{T_f}-\frac{C_{HC\cdot i}\cdot p_i}{T_i}\right)$$

M_{HC}	：HC質量	［g］
C_{HC}	：SHED内HC濃度	［ppmC］
V	：2.1.1.で測定されたSHED体積	［㎥］
T	：SHED内温度	［K］
p	：SHED内気圧	［kPa］
k	：17.6	
i	：初期指示値	
f	：最終指示値	